

令和6年度 第3回浜田市社会教育委員の会 議事録

○日 時 令和6年9月17日（火）9：30～11：30

○場 所 浜田役所 4階 講堂

会長 富金原 完

副会長 田中 耕太郎

委員 久佐 日佐志 岡本 康宏 中村 公一 柳川 智己

渡辺 支帆子 佐々木 幸子 花田 香 大崎 嘉光

大塚 美穂

○欠席者 2人 横内 京子 藤本 宏征

1 内容及び協議事項

(1) 表彰

島根県社会教育委員表彰

(2) 会長挨拶

(3) 協議内容

① 前回（研修）のふり返り

テーマ：「浜田市のコミュニティ・スクール導入について」

② 【説明】「浜田市のコミュニティ・スクール」

③ 【意見発表】

これまでの説明、研修会を受けて思うこと（気づき・感想・意見）

④ 【グループ協議】

・「浜田市のコミュニティ・スクールのより良い姿」

・「そうなるために地域住民にできること」

2 詳細内容

(2) 会長あいさつ

【会長あいさつ】

本日のテーマのコミュニティ・スクールですが、以前は学社連携という言葉を使って、一生懸命、学校と社会教育、学校と地域との連携を模索していた時期があった。

ここにきてコミュニティ・スクールということになっているが、個人的にはコミュニティ・スクールの連携も学社連携も同じではないかと考えている。今回のコミュニティ・スクールも、浜田市にあった立派なもの

にしていかなければと考えている。これまで長年、学社連携ということを研究・実践してきている。その成果を広げていきたいと考えている。

本日は11月に計画されている社会教育委員と教育委員との意見交換会のための準備会という位置づけにさせていただいて、有意義な意見交換会になるよう準備をしっかりとしていただきたいと思う。本日の会もこの趣旨を踏まえて有意義な会になるようお願いしたい。

【事務局説明】

「浜田市のコミュニティ・スクール～学校運営協議会とはまだっ子共育推進事業～」について事務局からの説明

【感想・意見】

■委員

何度か研修を受けてきているが、学校運営協議会のメンバーが7年度に始まる前にコミスクを理解しておくことが必要。始まってからも、協議内容も集まってから何するではなく準備をしていく必要があるし、協議のファシリテーターをだれがするのかを今から考えておく必要もある。

■委員

コミスクの具体的なところはまだ十分理解していないが、今の段階での私の思いは、本来地域に子どもがいて、いろいろなお手伝いをしながら地域に溶け込んでいた。本来そうであったところを今求められているのかと思っている。学校に地域活動に参加してほしいが、地域活動の担い手、推進役になるような体制をいかに作っていくかではないかと考えている。特に、先生方、保護者の方の参加、子どもも参加できるようなことになるとよいと考えている。

■委員

先ほどの説明を聞きながら、コミュニティ・スクールの話をするときには、どこかに反対する人がいて、どう持っていくという感じの説明に聞こえてしまう。コミスクは有効な手段という話があったが、まさにそうで、このツールを使ってどんな風に街を作るか、子どもたちとやっていくかが大事。浜田ならではということが大事で、これをどう使うのかということ。このチャンスを使っていい地域を作っていくにはどうするということをポジティブに考えていきたい。その時に、子どもたちは遊ばせてもらう存在ではなく、大人は企画する存在ではなく、大人と子どもと一緒に考えて、できる・できないと一緒に考えるもの。子どもたちはそこに居場所があつて認められる場所になっているので続く。大人も子どもと並んで対等に一緒に学校を作っていく話になればよい。

■委員

私の立場で考えると人権や同和教育で考えたい。それは日々の暮らしの中で考えていくものなのでより具体的に考えていくことができると期待している。教育内容を決めておく、作っておくということは大切。その場で出てきたことを大切していくことも大事。

■委員

コミュニティ・スクールはまだ自分の中に落ちていない。始まっているのでしようがない。ポジティブに考えてやっていこうと思っている。児童クラブの主任として、学校、保護者と話をすると認識の違いを感じる。もったいない。家庭の思いが伝わっていないことも多々ある。運営協議会が思いを共有できる会になるとよい。

■委員

子どもにとって、と考えると子どもの意見は尊重されるべき。ゆっくりではありながらも子どもが参画できるようなコミスクになるとよい。子どもが大人のパートナーであるということを実現できるとよい。それぞれの立場で参加する合議体なので、それぞれの立場でボトムアップしていけるとよい。まちセンとか共育コーディネーターの社会教育の役割は大きくなるので、ファシリテーターとしての役割は大きくなるので、スキルアップも必要。

■委員

長浜地区は様々な教育機関と連携している。今やっていることをもう一度見直しながら、子どもたちのためになるように考えていきたい。高校は始まっているが温度差がある。高校はドライ。地域の人のボランティアに協力していただいているが、人材確保が難しい。一人の人に何度もお願ひしている。人材確保は課題、自治会等のパイプを使いながらやっていきたい。

■委員

PTAの立場から言うと絵に描いた餅、今の課題に逆行している。岡山のPTAが解散した。PTAをしようという人がいなくなつた。非協力的なPTAやいろいろな立場の人が入つて自分の意見を言い出すと、協議会の熟議は船頭がたくさんいてものが回転していかない。今の時代に合つた流れ合つた簡素化したものでもよいのではと感じている。

■委員

コミスクは手段。新しい枠組みは危機感をあおられて枠をはめて数年後に形骸化するということはよくある。浜田は島根県内の市の中で最後。形骸化するからダメではなく、そこをどう使うかがポイント。これをうまく使っていくかが大事。子どもの課題や大きな課題、一般論で行くと論点が絞れない。学校経営の責任は校長。子どもにとって、この地域にとって何が必要かというメッセージを校長が示し、具体的に議論すること。そうす

るとメンバー選出は大事、排除ではなく活動につながる人がいかに集まるか、熟議で話し合ったことを一緒にやろうという当事者性、活動が目に見えるような議論がいかにできるかが形骸化を防ぐ。子どもが祭りに出てくれるとよい。まちづくり委員会の活動に子どもの意見が反映できるといいと考えている。

■副会長

岡山県のPTAが解散するということがありましたが、岡山独自の事情もあるが、全国どこでも、PTAの姿が見えにくくなっている。学校支援地域本部事業の発展型。PTAとしての受け皿も必要。学校から助けてほしいということがあれば、PTAも動いていた。親の意識も変わった。コミュニティ・スクールの中で、保護者の在り方も考えていく必要がある。文化協会との関連があるので、学校が地域に向かって話を出せると文化協会も動きやすいし、色々なつなぎもできる。学校と、まちゼン、地域とまちゼンの関係ももっと強くしていきたい。

■会長

コミスク充実のためには、地域の方に理解をしてもらいたい。学校とかかわりある人は理解しているがそうでない人にも広く理解してもらう努力が行政には必要。人材の育成も地域には埋もれた人がたくさんいる。より広く理解してもらえれば人材も増える。そのためにも社会教育委員も学校運営協議会の委員にぜひなってもらいたい。そしてこれまでの経験を生かしてもらいたい。

【グループ協議】

[浜田市もコミュニティ・スクールのよりよい姿]

[そうなるために地域住民にできること]



【グループ発表】 A

P T Aが地域活動に出る、今まで出てなかった人がまず子どもを見ていく、見ていた人が参画につながる。来年もっとこうなったらしいというサイクルになればよい。

子どもを核にというのであれば、子どもが参画する機会、生かせる仕組みを作って、この意識をみんなで持つことが大事。

そうなるとまちづくりセンターの機能が大事で、社会教育の機能などが整理されていって、人材バンクなども必要。

議論だけで終わらずに活動につながる。失敗もあるけども、その時にどうしようかという話ができるようなことが大事。

【グループ発表】 B

子どもの参画、子どもの意見を入れたい。子ども中心になる。

学校の課題なども地域に落としてほしい。

参加が楽しいという活動にしたい。

地域の方の経験値を有効に活用できるようになるとよい、地域の理解も必要。

地域住民にできること、地域を巻き込むことも大事。活動に参加しながら関心を持ってもらう。

子どもが地域の住民としての活動になりにくい。

若者の集う場所がなくなってきた。交流プラザ…も少し違う。子どもたちの意見を集める場を行政も作っていく必要がある。

各組織を集めて連絡協議会を開催するとよくわかる

【ワークシート記入】

自分に何ができるかを記入。

各自記入後、事務連絡を行って終了。